

【西区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日 午後 3 時 30 分 ～ 午後 5 時 00 分
場 所	西区役所 3 階 3 B 会議室
出席者	<p>【座長】 清水富雄議員</p> <p>【議員：2 名】 清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：33 名】 菊地健次区長、本多由紀子副区長、市川裕章福祉保健センター長、野田晴子福祉保健センター担当部長、飛鳥田まり医務担当部長、蝦名隆元土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 6 年度 個性ある区づくり推進費決算状況</p> <p>2 令和 7 年度 西区主要事業の進捗状況</p> <p>3 令和 8 年度 西区予算編成の基本的な考え方(案)</p>
発言の 要 旨	<p>【令和 8 年度 西区予算編成の基本的な考え方(案)】</p> <p>荻原議員：生成 A I についてまだその使い方についてはコンセンサスがしっかりとしたものはないと思うが、今後はこういった場面で活用すべきなのか、ルール化が必要になってくると思う。そのあたりの取り組み具合はどうか。</p> <p>吉川総務課長：生成 A I の活用については横浜市全体としても積極的に進めていこうということで進めており、例えば文章の作成、データの分析など得意とされる部分についてはまず A I で作成するなど試みている。一方で、その内容について必ずしも正しくない情報を拾ってきてしまう場合もあるため、その信憑性について十分気をつける必要があると思っている。また、著作権を侵害するような部分、もしくは社会的に不適切な表現が含まれるような内容については、リスクと考え、職員によるチェックが必要と考えている。</p> <p>荻原議員：今後、生成 A I については、社会全体でコンセンサス作りが必要なところであると思っている。勇み足が生じることのないように十分慎重に気をつけていただきたいと思います。</p> <p>清水議員：生成 A I が間違えるということだが、一般的に A I が出した答えはすべて正しいと思ってしまう。そうでない場合があるという</p>

ことは、なかなか理解されていない。

吉川総務課長：A I の扱い方によって、広くインターネット上にある情報を収集して答えを出すときがあり、場合によって誤った情報を拾ってしまう可能性があるので、確認は必要と思う。

清水議員：やはり、最後の確認は、人がチェックすることが必要ということ。文章、データについては、A I が得意ということだが、文章、データだけのやり取りでは、人柄、表情、体温など伝わらない。やはり会って、情報を交換し、話をするということが第一だと思う。区役所では、チーム区役所として職員が一体的に動いてもらっており、区民に寄り添う姿勢が西区は、区政に反映されていると思う。

荻原議員：A I は、今まだ未熟な発達段階で、知識は間違えることが多い。その特性が使う A I によっても全く違う。それぞれの得意分野を学習するという意味においては、有効であるけれども、しかし、100%信用してはいけないところもあり、やはり今の段階は、そうしたルール化が大事と思っている。

荻原議員：予算編成の基本方針で、「誰もが自分らしさを生かして活躍する社会参加を促進する地域づくりインクルーシブな社会の実現」ということでこれは大変素晴らしい目標であり方針であり、ぜひ実現していただきたいと思っている。このインクルーシブな社会というのが一体どういう社会なのかという定義のところについて、「誰もが自分らしさを生かして活躍する社会参加を促進する地域づくり」というのは、インクルーシブ社会の一側面ではあるが、全体は、包摂できていないと思う。当人が社会参加まで至らなくても、その方が人間として幸せに生きることができる社会をつくっていくというのが、インクルーシブの一つ、大きな旗でもあると思っている。文章として表現していただければ、より良くなると思うので、その点を考慮してもらいたい。

菊地区長：社会参加について一部しか捉えていないような形になっているが、まだ案文であり、すべての方々が安心して暮らしやすいまちづくりをしていく、誰もが暮らしやすいまちをつくっていくことが、われわれの使命であるので、その内容に即した形で考えていきたい。

<コ 地域防災活動推進事業>

荻原議員：河川情報伝達システムの更新について、このシステムの話ではないが、今横浜駅の周辺の雨水排水の能力を向上させるために、大口径の雨水管工事を行っており、これが一時間 74mm 対応と聞いている。この帷子川と新田間川の、溢水しないための対応能力が何ミリか、まず確認したい。

吉川総務課長：帷子川について、平成 16 年、台風 22 号で河川が氾濫し、神奈川県において一時間あたり 82mm の雨量に対応できるような護岸整備を行っている。また神奈川県の浸水被害想定としては、24 時間雨量で 390mm を超えると浸水が発生するという想定もある。したがってこうした数値をもとに、多くの雨が降った場合に河川の氾濫の可能性があると考えている。

荻原議員：帷子川と新田間川は、82mm に対応して護岸整備されているということでしょうか。

吉川総務課長：当時、護岸整備した時にそうした考えで行っていると聞いている。

荻原議員：74mm 対応ができていると考えてよろしいか。つまり、横浜駅周辺で今進んでいる大口径のものと同程度の能力かどうか。

菊地区長：横浜周辺の浸水対策事業で竜宮橋の雨水幹線で一時間あたり約 74mm、30 年に 1 回程度の降雨に対応という形の整備をしている。これは川の氾濫ではなく、内水氾濫、下水管に雨水が入っていかなくなり、氾濫し街の中が水びたしになってしまうというような浸水対策のための整備になる。それを 30 年に 1 回の雨でも対応できるようにしていく。河川については、帷子川の流域で降ったものがどれだけ総雨量として出てくるか、川の護岸が壊れてしまって、氾濫するという川の氾濫に対する対応を県が今、時間 82mm また、総雨量 390mm と対応した整備を行っているので、それぞれの対応が必要になってくる。

荻原議員：川は総雨量に対してということで時間 82mm、この時間 82mm は内水の測り方とは違うのか。

菊地区長：雨量の見方としては一緒になる。

荻原議員：横浜駅周辺より帷子川と新田間川の氾濫対応力の方が高いということか。

菊地区長：帷子川の場合には、例えば保土ヶ谷区とか旭区での降雨が、流れてきて、総雨量となるので、その降る場所によって、結構違っ

てくると認識している。西口あたりで 30 年に 1 回 74mm での降雨、流域の 140 ヘクタール、横浜駅周辺でその時間に降った場合には、下水が排水できないような状況になってくるため、そのエリアの見方によって考え方が変わってくると認識している。

荻原議員：最近ゲリラ豪雨など、気候変動などで雨量が増えているという状況がある中で、竜宮橋の大口径雨水幹線は 74mm で、平成 16 年に氾濫した帷子川と新田間川については 82mm で護岸整備をしている。帷子川と新田間川の護岸整備は、今行っている横浜駅周辺の 74mm/時間の能力よりも超えている、超えていないという議論は、できないということだが、それぞれで今できる最大のもので整備しているということか。

菊地区長：まさにそれぞれの整備をしなければならないということで、西区でもシーズンハザードマップがあり、川の氾濫によるものと、下水道局の方で行っている内水氾濫によるものと 2 種類出てきている。先ほどの総雨量 390mm というのは、平成 26 年のその最大総雨量で、横浜市の最大総雨量で降った時を想定して考えている。それぞれ想定する最大のものがいくつか、判断しながら県も行い、横浜市も行っている。両方の整備をさらに今の気候変動の中で整備を進めているというふうに、ご説明いただければと思う。

荻原議員：横浜市は今、大口径の横浜駅周辺については 74mm 対応でやっている。これもさらに能力を上げてほしいという市民もいると思うが、一方で帷子川と新田間川については、特段、工事はしていないため、工事をしなくて良いのか市民にどのように伝えていくかが大切だと思う。この 82mm の表現が、この大口径管の 74mm 対応と同じバックグラウンドから来ている数字として説明は、できないということで、おそらく川は川、地面は地面ということでは、ないか。川の 1 時間 82mm が実際どのくらいの耐久能力があるのかが分からないため、数字を聞くと川は、溢水しないかと考えてしまう。

清水議員：一時期、横浜駅の周辺と西区の下水道について、横浜駅周辺は 60mm 対応で、西戸部あたりは 50mm 対応というような違いの理解でいたが、先ほどの話では現在は 74mm。雨量では、24 時間で 390mm という言い方もあり、ニュースでは 1 時間あたりの雨量で伝える

など、どれだけの雨量かというのが基準をそろえないと市民も分かりにくいと思う。例えば、昨日から今日にかけての雨量は 100mm や 200mm を超えましたと良く耳にするが、時間あたりの雨量との関連が分かりにくい。近年は、線状降水帯が発生するなどしており市民の不安もあり、必要な情報を分かりやすく伝える必要があると思う。

菊地区長：短時間に例えば 100mm どっと降ってしまう雨も心配だが、長時間に 30mm でも降り続く雨も心配で、1 時間当たり、総雨量の両方の対応を考えていかなければならない。そのため、下水の整備も、川の整備もしなければならない。現在は内水氾濫もあり、川の氾濫による心配も出ている。他に高潮、津波もあり、割と低い標高のところについてはその両方を心配することが大切であり、その二面性を持って考えていく必要があると思う。西区の場合には潮位によるものか、氾濫によるものかで全然違ってくるので、改めて区民の皆様にも分かりやすい説明の仕方をこれからも工夫していく。また、河床に泥が溜まってくるので、河床の浚渫工事も行い、排水しやすくしているなど市民にわかりやすい説明を進めていきたい。

清水議員：地元の皆さんからは、短時間での大雨の際など横浜駅周辺に水が溜まったなど対応が求められる。下水の排出能力を考慮して整備されていると思うが、下水のますにごみや落ち葉が詰まり能力が発揮できていないということもあると思う。理想的な話にはなるが、例えば横浜駅西口の清掃ボランティアなどで台風が来る前に皆で掃除するなど連携することができたらと思う。

蝦名土木事務所長：当然、下水道整備する上では、時間雨量に応じて流入する水の量、エリアと合わせての必要な関係など、排水能力を確保しているが、設計通りの水が排出できるかというと、ますや下水管の目詰まり、集水ますに十分に水が浸透しないようなことがあると、設計・計画通りの水が排出できないということになる。そのため日常点検、日常管理の中では、排水側溝の、清掃や、目詰まり、中に溜まっているゴミや落ち葉が排水の支障にならないように清掃を冬頃から行っている。それと、本日のように台風の襲来が予想されるような時、過去にも浸水したような場所や恐れのあるところは事前に確認し、清掃、ゴミを取り除くなどの対応

もしている。また集水ます自体にゴミが入らないように、ますの目の細かいようなものへの交換なども今検討している。

本多副区長：さらに補足すると、町内会や商店街、いろいろなところでも清掃活動をして、排水能力を高めることにご協力をいただいている。広報の面でも、広報よこはまなどを活用してこうした落ち葉の清掃など、また気づいたことがあれば、土木にラインでも通報ができるようなシステムもあるので、そうしたこともしっかりと広報していきたいと思う。

荻原議員：次に、地域防災拠点でのペット一時飼育場所開設キットについて、これは、避難所の屋外で使われるものかどうか確認したい。

坂井生活衛生課長：一時飼育場所を屋内にするか屋外にするかというのは、各拠点でどこが使えるかという設定をさせていただいている。ただ、今のところ、基本的には屋内が避難者の過ごす場所としている避難所がほとんどであり、ペットの一時飼育場所は、各拠点それぞれ皆さんが過ごされる場所とは少し違う場所を指定していることが多いと思う。ただ、屋根は、基本的にあるところが設定されていると思う。

荻原議員：そうすると屋根があることが条件だと。

坂井生活衛生課長：基本的には、屋根のある場所をお願いしている。設定している場所は、半屋外、ピロティのようなところ、通路の横などがほとんどかと思う。

荻原議員：動物アレルギーのある方も避難に来られる可能性が十分考えられるため、動物アレルギーに対する配慮を周知してもらいたい。

<横浜駅西口の汚臭の対策状況について>

荻原議員：前回前々回に続き、横浜駅西口の汚臭の対策状況について教えてほしい。

井田土木事務所副所長：西口のこれまでの対策として、定期的に下水管の清掃を行い、街渠柵からの臭気を防ぐ防臭リッドの設置など、様々な対策を実施している。さらに、今年度は、横浜駅西口の排水不良が確認されていた公共下水道について改善工事を実施している。今後は、臭いの発生源の施設がだいたい特定されてきたため、強く指導していきたいと考えている。下水道河川局とも連携しながら、今後調整を進めていきたい。

荻原議員：今後もよろしくお願ひしたい。

清水議員：家庭では、排水管を薬剤で洗浄する製品があるが、下水道管でも、薬剤で洗浄したり、臭いを抑えたりすることは可能ではないか。

井田土木事務所副所長：硫化水素が発生しているので、現状では薬剤で臭いを抑えることは難しいと思う。薬剤の利用の可能性も含めて下水道河川局と調整を進める。

清水議員：西口界限やみなとみらいの異臭については、改善要望も多い。公共下水道とは別にビルピットがあり、そこが臭いの発生源となると横浜市だけでなく設置者にも協力してもらうべきでは。

井田土木事務所副所長：公共水道管の清掃などは日々行っており、地下にある排水ピットに溜まる硫化水素などが臭いの原因となっているので、民間ビルと協力し、対応していく必要があると考えている。

<スポーツ振興事業>

荻原議員：インクルーシブスポーツについて、障害者スポーツのプラススポーツチームとの連携についての可能性を知りたい。

加藤地域振興課長：横浜市の社会人リーグに参加している知的障害者サッカーチーム横浜F・マリノスフトゥーロとの親子交流会を現時点でも開催している。その上で、今年度は、西区民まつりと同日に行うインクルーシブスポーツ体験会の中でどのような種目を実施するか、横浜市のスポーツ協会と連携して検討している中で、これまで連携していなかった障害者のプロスポーツチームと連携できないか、最終的な調整をしており、決定したら公に発表、報告したい。

<地域連携推進・回遊性向上事業>

荻原議員：地域資源を活用したまちの回遊性向上の事業について、花と緑のまちづくりの推進があり、回遊性向上に資する緑となると、代表的なものは、街路樹になろうかと思う。西区内で回遊性を高め、出かけやすい、できるだけ涼しく街の散策ができるというような取り組みとして、緑を増やす取り組みが行われているか教えてもらいたい。

川添区政推進課長：西区は緑被率が 18 区中一番低いということあり、強い日差しによる暑さの中、日よけができる場所など、様々なご要望をいただいている。2年後のグリーンエキスポに向けて、より

緑の場所を増やし、温暖化に資するものにするため、みどり環境局を含め、地域の皆様のご要望をお伝えしながら、少しでも取り組みを進められるようにということで調整している。

荻原議員：青葉区、港北区、緑区に行くと街路樹が圧倒的に多く感じ、西区の中にも街路樹に限らず、日除けとなるようなお出かけしやすい緑の創出を進めていただきたい。

＜資料要求＞

荻原議員：資料要求をお願いしたい。

一つは子育て支援について、西区のこども家庭支援課が、実際にお子さんの支援に入っている状況を知りたい。児童相談所とも連携している内容や、児童相談所が介入しなくても西区のこども家庭支援課として支援をしている内容といったものがわかる資料をいただきたい。

大熊こども家庭支援課長：児童虐待の関係で、要保護児童として支援をしている児童について、児童相談所が支援に関わっていたり、区役所として支援をしていたりするので、そうしたケースの数を提出したい。

荻原議員：もう一つは、高齢・障害支援課で同様に西区の高齢・障害支援課として支援をしている状況について知りたい。具体的に、高齢・障害支援課で、知的障害の方、精神障害の方、身体障害者の方にどういった支援がされているのか、どういった手帳をお持ちか、個人情報に触れない、出せる部分だけで良いので、西区内で高齢・障害支援課が支援している現在の状況について資料があればありがたいと思う。

池田高齢・障害支援課長：障害者への支援についても、虐待に関わる支援の数値ということか。

荻原議員：虐待、障害に限定せず、高齢者・障害者それぞれの支援の数値についてお願いしたい。例えば、知的障害があり、その方の生活の介護に入られているような総合支援法に基づく介護、それ以外にも課として支援している事案があればそれを知りたい。

池田高齢・障害支援課長：障害の部分については、サービスの決定者数、障害の手帳の数などいろいろなデータがあるが。

荻原議員：数字とともに、内容を知りたい。個人情報に差し障りがある部分は、判断してもらいたい。

池田高齢・障害支援課長：障害の部分、高齢の部分、また別に調整させていただき、資料要求の結果をお返しするという形にしたい。

荻原議員：よろしくお願いいたします。

＜「にこやか しあわせ くらしのまちプラン」(西区地域福祉保健計画)の推進＞

荻原議員：にこまちプランの小中学校への出前講座について、資料にある小中学校は宮ヶ谷小学校、戸部小学校、西前小学校と西中学校で、これ以外の学校での今後の実施の予定は。

繁田福祉保健課長：学校にご案内し、その反応を受けて行っている。そのため、他の学校から新たにお問い合わせという話があれば、日程調整し、同じような形で実施する予定にしている。

荻原議員：この出前講座の中身として、にこまちプランについて、こどもの権利として意見を聴取したり、考えを聞くというようなプログラムは、この出前講座の中にあるのか。

繁田福祉保健課長：こどもの意見はもちろん題材として活用する。例えばにこまちプランはこのように作るとか、周りで困っていることに対して、どのように考えるかといったことを職員が話し、そこで出てきた意見を聞いている。

荻原議員：こどもの権利の実現という部分も、自分たちにそうした権利があるということがわかるような形で、にこまちプランについての意見を聞きたいと投げかければ、よりこどもの権利条約の実現に向け前進するのではないかと思います。

繁田福祉保健課長：実際の進め方については、担任の先生と区役所とで協議し、投げかけをどうするかなどやり取りをしながら実施しているので、こどもの意見がより取り入れられるように引き続き努力していきたい。

＜スポーツ振興事業＞

清水議員：オリンピック、パラリンピックがあり、今年は、デフリンピックが開催される。オリンピック、パラリンピックは、100%の人が知っているが、デフリンピックは、30%ほどしか知名度がないと聞いている。今年、開催される年にあたり、西区でも選手がいると聞いているのでそうした選手をクローズアップし、スポットライトを当てていきたいと思う。また、横浜市では、新たな中期計画があり、西区ではにこまちプランの策定を行っている。これらの

プランは、連携していかなければならないと考えているが、中期計画、にこまちプラン、マスタープランについてどのように連動しているのか知りたい。

本多副区長：市及び区には、様々な分野における計画があり、にこまちプランは、西区として総合計画として位置づけており、当然市全体の上位計画である中期計画の策定がされる際には、その内容もしっかりと見ながら反映すべきところは、にこまちプランにも反映させていかなければならないと考えている。都市計画に関するマスタープランについても、今後全市的に作成にむけ動いていくところであり、まちづくりに関する計画もしっかりと他の計画と連動させていきたいと考えている。

清水議員：横浜市の中期計画の中には、子育てしたくなるまちという項目があったと思う。次の時代の子どもたち、それから孫たちに向けてということでもう集約されていることと思うが、世代を超えてつながっていかなければならないと思っている。また、区役所には 300 人、戸部警察署には 200 人職員の方がいると聞いている。警察は、派出所からだんだん人を引き上げている。地元の様々なことが今、サービス不足になっているところがあると思っており、区役所も警察も一体となって地域をカバーできるようにしていく必要があると思う。

菊地区長：西区役所、横浜市が基礎自治体として地域の皆様のお声をいただき、区民の皆様が生活しやすい、事業を進めていくというところで、区役所がまさにその一番の最前線になっているため、そこをしっかりと進めていくことが一番大事と思っている。その中で警察関係も、特別市の取り組みも推進しようとしているため、この状況も含めながら、区役所として区民に寄り添った取り組みを進めていかれるよう、そして局に対してしっかりとその状況を説明しながら事業を推進していきたいと思っている。

加藤地域振興課長：デフリンピックの関係について、今年の 11 月にデフリンピックが東京で開催される。日本で初めて開催される大会で、なかなか認知度が上がっていないのも事実だと思う。神奈川県を通じてチラシの配架など、周知の協力依頼も来ており、区役所としてもこの大会の認知度を上げるための協力をしていきたいと思っている。また、西区出身の選手が出場するとの話もあり、

	そうした選手がクローズアップされるような取り組みも可能な限り進めていきたい。
備 考	